

会 議 録

会 議 名	令和5年度第3回東松山市文化財専門調査員会議					
開 催 日 時	令和6年3月4日（月）			開 会	13時30分	
				閉 会	15時10分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階 302会議室					
会 議 次 第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議題 (1) 令和5年度事業報告について (2) 令和5年度指定文化財パトロール報告について (3) 令和6年度事業計画（案）について (4) 東松山市文化財保存活用地域計画について 報告 4. その他 5. 閉会					
公開・非公開の別	公開	傍 聴 者 数		0人		
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	議長	榎本 榮一	出席	調査員	原田 吉樹	出席
	調査員	新井 裕子	出席	調査員	坂野 千登勢	出席
	調査員	榎本 直樹	出席	調査員	横山 晋一	欠席
	調査員	中澤 利雄	出席			
事 務 局	柳沢 知孝 生涯学習部長			佐藤 幸恵 埋蔵文化財センター所長		
	田島 信子 生涯学習部次長			矢口 翔馬 埋蔵文化財センター主任		
	上 敏文 生涯学習課課長					

次 第	顛 末
1. 開 会	佐藤所長
2. あいさつ	榎本榮一議長
会議の公開、会議録署名委員の指名	<p>○会議の公開、傍聴人、会議録署名委員の指名について （佐藤所長）会議を公開とするか非公開とするか、傍聴人の申込みがなかったこと、会議録の署名委員を指名することについて、説明。</p> <p>・会議については公開、傍聴人は申込がなかった、会議録署名委員は中澤調査員と原田調査員を指名することについて、全員了承。</p>
3. 議 題	<p>（1）令和5年度事業報告について</p> <p>●文化財啓発事業 （矢口主任）説明。 質疑なし。</p> <p>●文化財保存事業 （矢口主任）説明。 質疑なし。</p> <p>●文化財調査事業 （矢口主任）説明。 質疑なし。</p> <p>●埋蔵文化財センター運営事業 （矢口主任）説明。 質疑なし。</p> <p>（2）令和5年度指定文化財パトロール報告について</p> <p>（新井調査員）箭弓稲荷神社の絵馬は現在倉庫に保管されている。夏ごろには倉庫の空気の入れ替えを行っているようだが、年に一度くらいは現物の状態を確認し、ホコリ落としなどを行った方がいいと考えるが、他の絵馬などと重ねて収納しているため、容易に取り出せず、現物の確認ができない。事務局と所有者で相談し、何らかの対応ができないか。そのほかは異常なし。</p> <p>（榎本榮一調査員）妙昌寺の日蓮上人祖師像は特に問題ない。ただ文化財解説板が劣化し、文字が見えなくなっているので改善が必要。また世明寿寺の千手観音も特に問題はないが、こちらも文化財解説板の劣化が激しい。世明寿寺については二十八部衆に風神雷神が付く。特</p>

に変化はないが、できるだけ早めに修理をした方がいい。それから算額も劣化してきていて、文字が見えにくくなってきたことに加え、背面の枠が一部欠損し、板が表枠と遊離している状態を確認した。現地でご住職と裏枠の材を探したが見つからず、今後枠から板が外れてしまう恐れがある。

（榎本直樹調査員）民俗文化財は今年度確認できなかった。背景として他市町村のものも含めて開催時期が重なるので、なかなかすべて確認するのが難しい現状がある。

（中澤調査員）カタクリの群生地を確認した。例年より早くつぼみが出ており、あまりに早すぎるので、寒の戻りで傷まないか心配。良く手入れされているが、中々自然の状態で管理し続けるというのは難しい面もあるので、今後も丁寧な経過観察が必要。カタクリは太平洋型と日本海型で若干違うが、東松山市のものは典型的な太平洋型である。そのほかは観察を続けるが、現状特に変化はない。

（原田調査員）正代の阿弥陀一尊板石塔婆など板碑3点については、永く個人の方が管理されてきたが、水害の関係で引っ越して以降、現地は常時人がいる状態でなくなり、夏場になると若干板碑までの道が草で行きにくくなってきた変化がある。アクセスの確保が課題と感じた。

（坂野調査員）おくま山古墳と野本氏館跡の土塁については、キツネの営巣が問題で、経過観察を続けている。いずれも特に最近は使われていない状態と思われ、またおくま山古墳については近時事務局で動物忌避剤をまいてくれたとのことだが、時間が立てばまた戻ってくる可能性もあるので引き続き注意が必要。俱利伽羅不動尊は毀損事案があって以降、警戒が強化されていて、防犯カメラなどが設置されている。

（矢口主任）皆様からご報告いただいた課題のうち、箭弓稲荷神社の絵馬については年に1回外に出して、虫干しなどをした方がいいという主旨か。

（新井調査員）1年でも2年でもいいが、定期的に状態を確認することが必要ということ。

（矢口主任）箭弓稲荷神社の絵馬は複数点あってどれも大型で、別の場所に保管すると散逸の恐れもあるので、現状現地で保管するほかないと思うが、ただその中で、例えば置き場所を手前にするなど、直ぐ

に確認できるようにすることなどは神社と相談して検討していきたい。

次に妙昌寺と世明寿寺の解説板だが、世明寿寺については当方でも改善が必要と感じている。また妙昌寺については、解説板の設置位置と標柱の設置位置が離れている状態もあり、どこかにまとめることも含めて検討が必要と考えている。

ただ予算の関係で同時にすべて修繕はできないので、優先順位をつけていくべきだが、榎本調査員から見て妙昌寺と世明寿寺はどちらの方が優先すべきと見えるか。

(榎本調査員) 妙昌寺の劣化のほうが深刻と考える。また解説板に指定になっている瓦塔の記載がない。

標柱と解説板の設置位置については、指定文化財のほとんどが保管された祖師堂が、本堂から離れている現地状況がある。実際に文化財を見るためには祖師堂まで登らないといけないので、下に標柱があって指定文化財の所在を明示し、上に解説板を置いてその詳細を伝える現状の状態には、一定の効果もあるので、難しいところ。

(矢口主任) ご意見踏まえ、解説板の修繕については妙昌寺を優先し、設置位置の改善については、ご住職の考えもあると思うので、適宜協議しながら検討していくが、基本的には現在の解説板の差し替え修繕を軸に検討していく。

次に算額だが、裏からとめている枠は後補のものか。

(榎本調査員) それは現物をよく観察してみないとわからないが、竹くぎのようなもので固定している痕跡があるので、古いものの可能性がある。

(矢口主任) 文化財修復となると時間と費用もかかるので、応急対応として別の木材などで補う、あるいは万一外れ落ちても問題ない場所に移設することなども考えたほうがいいか。

(榎本調査員) 元の枠が戻れば当面は安定すると思うので、まずはその搜索から始めるべきと考える。

(矢口主任) 現地確認し、ご住職と相談しながら対応を検討する。

次に板碑までのアクセスの除草だが、所有者が現地を離れたとはいえ、所有者が除草などの管理を行っている様子はどうかがえる。そういった思いを汲みながら対応を検討していきたい。

(原田調査員) 所有者さんが板碑をととても大切に管理されており、あ

